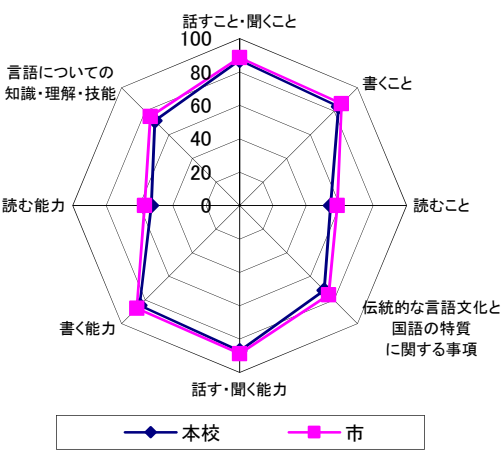


宇都宮市立国本中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	87.1	88.7	89.1
	書くこと	83.9	86.4	64.2
	読むこと	54.6	58.5	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.7	75.5	72.0
観点別	話す・聞く能力	87.1	88.7	89.1
	書く能力	84.6	87.1	66.7
	読む能力	52.9	56.9	55.0
	言語についての知識・理解・技能	71.8	75.6	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

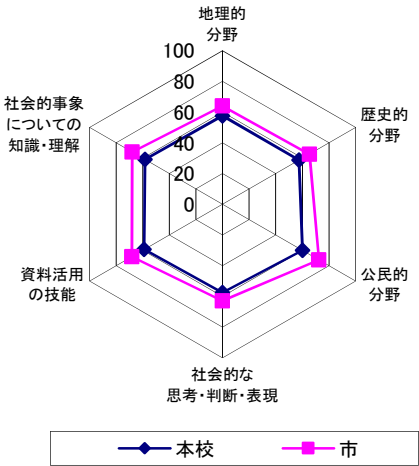
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	本校の正答率は、市の平均正答率よりも1. 6ポイント下回っている。 ○聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取る問題の正答率は市平均を0. 6ポイント上回っている。 ●司会者の工夫を聞き取る問題の正答率は市平均を4. 5ポイント下回っている。	・聞き取りの練習を継続して行うことで、話の趣旨を正確に聞き取る力をつけさせる。また、先生の話や級友の意見を聞きながらメモを取る訓練を継続的に行っていきたい。 ・授業で話し合い活動を積極的に取り入れ、司会者の立場を全員が経験することにより、話し合いのスキルの向上を目指す。
書くこと	本校の正答率は、市の平均正答率よりも2. 5ポイント下回っている。 ○指定された文字数で、3段落構成で文章を書くことができる。自分の考えを明確に書く問題の正答率は88. 7ポイントと高い。 ●自分の考えの理由を書く問題の正答率は市平均を3. 5ポイント下回っている。 ●作文自体の無回答が9. 7ポイントだった。	・原稿用紙の使い方を改めて確認し、示された型どおりに書く練習をしていく。良い意見文を生徒に示し、書けない生徒にはそれを視写させて「書くこと」への抵抗感を取り除いていく。 ・自分の考えと根拠を明確にし、具体例や体験を示し、論理的な文章を書く練習をする。さらに反対意見に対する反論を示すことで、より文章に強い説得力を持たせたい。
読むこと	本校の正答率は、市の平均正答率よりも4. 0ポイント下回っている。 ○説明文の読み取りでは、文章の構成や展開をとらえる問題の正答率が市平均を10. 4ポイント上回った。 ●文学的文章の読み取りでは、文章の表現の仕方をとらえる問題の正答率が市平均を10. 0ポイント下回った。	・意味調べを家庭学習の課題とし、読解に必要な語彙力を身に付けさせる。 ・教材文以外のさまざまな文章に触れさせる機会を設け、言語感覚を磨かせたい。 ・接続詞に注目することで展開に則した内容をとらえる力、指示語の示す内容を理解する力、要旨をとらえる力を継続して身につけさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	本校の正答率は、市の平均正答率よりも3. 8ポイント下回っている。 ●漢字は、中学校3学年までの読み、小学校で学習した書きについて、市平均をすべて下回り、課題が残る。 ●助動詞の問題、類義語・対義語の問題、古典の内容を読み取る問題の正答率が低い。	・1学年下の配当漢字の読み書きの復習を含め、学年配当の漢字を継続的に学習し、確認テストを行うこと、家庭学習における漢字練習を習慣化することで定着を図りたい。 ・3年間を見通した文法学習を行い、繰り返し問題を解くことにより苦手意識をなくしたい。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	57.7	64.0	50.9
	歴史的分野	57.6	65.3	57.1
	公民的分野	60.1	72.4	67.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	57.5	62.9	52.3
	資料活用の技能	58.9	68.2	58.1
	社会的事象についての知識・理解	58.4	68.0	59.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

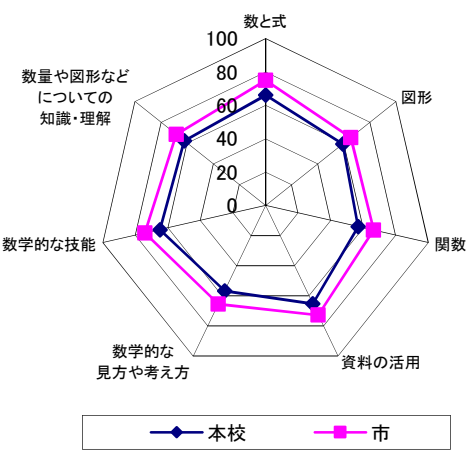
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	●市の平均を6, 3ポイント下回った。 ●「世界の人々と環境」についての単元及び「世界の諸地域」についての単元ともに、知識・理解の定着が下回った。	・小テストなどを実施して、基礎学力の定着を図る。 ・資料の読み取りについては、社会科的見方・考え方を培う土台になるものなので、地誌学習の際に丁寧に扱っていく。 ・文章記述や資料の読み取りを反復練習・演習する場を確保していく。
歴史的分野	●市の平均を7, 7ポイント下回った。 ●古代・中世・近世の歴史理解については、中世の日本の理解が低かった。	・映像資料などを用いるなど授業の中で具体的な資料を活用し、理解の定着を図る工夫をする。 ・歴史の流れを整理し、原因と結果を考える学習を行っていく。 ・中世史の内容を定着させることが課題である。 ・小テストを実施し、基礎学力の定着を図るとともに、文章記述や資料の読み取りを反復練習・演習する場を確保していく。
公民的分野	●市の平均を12, 3ポイント下回った。 ●「人間の尊重と日本国憲法」「現代の民主政治と社会」とともに知識・理解の定着が下回った。	「知識・理解」の定着及び「資料活用の技能」について、正答分布で社会全体として二極化がみられる。中間層の底上げが課題である。特に基本的な知識・技能の定着を日々の授業で習得させていきたい。具体策として①小テスト・単元テスト②作業的学習等実施していきたい。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	66.1	75.0	70.3
	図形	59.3	65.2	63.4
	関数	56.9	66.4	51.5
	資料の活用	65.3	72.8	63.9
観点別	数学的な見方や考え方	56.7	65.5	55.1
	数学的な技能	64.9	74.2	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	62.1	68.3	64.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

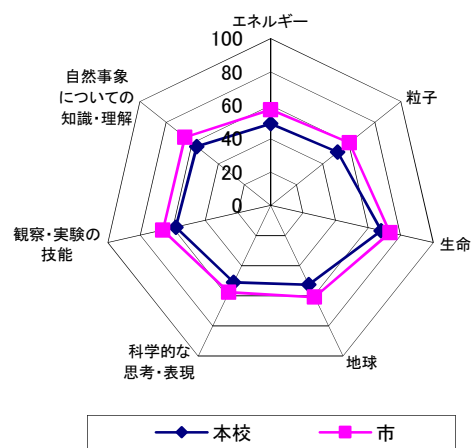
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	●市の平均を8.9ポイント下回った。 ●活用の面で、文章問題に対して立式したり意味を説明したりする問題の正答率が低い。	○引き続き基礎的・基本的事項の反復練習を重ねるとともに、根気強く文章題等に取り組むもうとする態度を育てていきたい。
図形	●市の平均を5.9ポイント下回った。 ●証明問題での記述で、無解答や証明につながらない解答が60%近い。	・証明問題は、基本的な性質（定理）が身に付くようパターンの反復練習が必要である。
関数	●市の平均を9.5ポイント下回った。 ●2乗に比例する関数では、文章問題を読み取り活用することができていない。	・関係式の持つ意味、グラフの意味や見方、表とグラフと式に関連性など、根本的な関数の理解を深めさせていきたい。 ・苦手な生徒には、表やグラフを書いたりする具体的な活動を大切にさせ、視覚化できることの良さと、2つの数量の関係を繰り返しおさえる
資料の活用	●市の平均を7.5ポイント下回った。 ●さいころやコインに関する確率の問題の正答率が市の平均を下回っていた。	・3年生で標本調査の単元に入る際に、復習事項として話題に取り上げ、用語の意味と扱い方を再確認する。 ・確率では、文章を読み取って場面を把握する力が必要であるため、樹形図やパターン分けなど順序よく考えて分かりやすくする方法について指導する。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	49.1	57.5	51.6
	粒子	51.4	60.3	53.0
	生命	68.0	73.4	67.9
	地球	52.6	60.9	57.4
観点別	科学的な思考・表現	51.1	57.7	51.5
	観察・実験の技能	58.3	66.2	58.2
	自然事象についての知識・理解	56.7	65.7	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

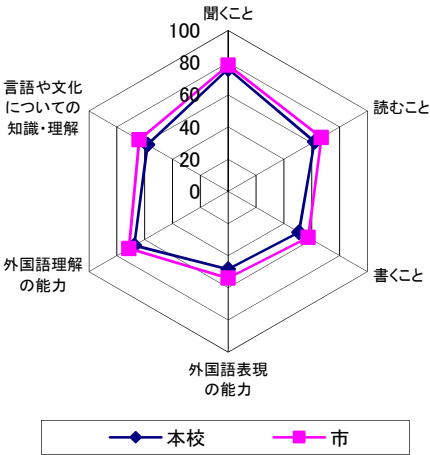
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○光の性質についての質問での正答率は、参考値を上回っている。 ●仕事率を求めたり、動滑車の性質、仕事の性質を問う問題の正答率は、市、参考値ともに下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・仕事については実験のねらいをしっかりとらえさせて行うとともに、計算と実験の関係を丁寧に説明しながら、繰り返し指導していく。
粒子	○水の電気分解についての正答率は、参考値を上回っている。 ●水溶液とイオンの性質を問う問題については、市、参考値を下回っている。	・原子レベルの目に見えない事象をイメージさせるために、モデルを有効活用して授業を行うようにする。
生命	○光合成後にヨウ素液で染まる部分を指摘する問題の正答率は、市、参考値を共に上回っている。 ○無脊椎動物の分類をする問題については市とほぼ同じ正答率である。 ●遺伝子の伝わり方を問う問題についての正答率は、市、参考値ともに下回っているものが多い。	・遺伝子が形質を決定しているという概念が十分に身についていないと考えられる。遺伝子を表す約束事を十分に理解させた上で、問題演習を反復させるようにする。
地球	○マグマや火山噴出物のでき方を問う問題についての正答率は、参考値を上回っている。 ●大気中の水蒸気の性質などを問う問題についての正答率は、市、参考値ともに下回っている。	・目に見えない水蒸気が空気中に溶け込んでいる概念が身につけていないと考えられる。その概念をしっかりとイメージできるように、デジタル教科書や視聴覚教材を有効活用する。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	76.1	78.4	72.9
	読むこと	61.9	66.9	63.2
	書くこと	50.8	57.5	58.4
観点別	外国語表現の能力	48.4	54.0	51.1
	外国語理解の能力	67.5	71.3	65.9
	言語や文化についての知識・理解	58.0	64.0	68.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	●市の平均を2.3ポイント下回った。	・聞くことに関しては、市の平均はわずかに下回ったものの、全国平均に比べると比較的良好な結果であった。 ・授業中の視聴覚教材を利用した活動を更に充実させる。 ・家庭での英語の学習において、聞くことを更に取り入れるよう促す。
読むこと	●市の平均を5.0ポイント下回った。	・上位の生徒と下位の生徒の二極化が見られる。 ・読むことが充実してこそ、全ての領域での改善が期待できるので、1年時からフォニックス等を時間をかけて指導し、単語が全く読めない下位生徒への支援を充実させる。
書くこと	●市の平均を6.7ポイント下回った。	・3領域の中では最も市の平均を下回った。 ・授業中はもちろん、家庭学習においても、書くことの領域の学習は不足する傾向にある。授業中のわずかな時間を利用し、毎日継続して書くことの学習を充実させる必要がある。また、家庭学習においても書くことの充実を図るため、適切な内容の課題を継続して出題する必要がある。

宇都宮市立国本中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学習強化週間の実施	・定期テスト前の1週間は家庭学習ノートを必ず毎日提出させ、学習状況を学年で確認していく。 また、定期テスト3日前には、5教科の担任が学習相談を実施し、テスト範囲の質問に答えたり、ワーク等の指導も行った。	・生活アンケートのエ②の項目が昨年度に比べ各学年とも上回った。各教科20名程度の生徒が学習相談に参加するようになり、自習体制ではなく、積極的に質問できるようになってきた。
・授業改善に向けた3つの視点(目標・振り返り・自分の考えを書く)の取り組み	・3つの視点を意識した授業のため、本時のねらいや振り返り、今日のポイントのカードを全教室に配付し、全授業において使用していく。また、自分の考えを書く習慣として、スタンダードダイアリーの指導強化に努めた。	・今後も継続的に指導していくとともに、学校評価や全国・とちぎっ子・定着度調査等で学力の定着具合を判断していく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・生活アンケートのウ④の項目が昨年度より5ポイント上がっており、市の平均より上回っている。デジタル教科書の有効活用を啓発するとともに、インターネットやパソコンを今後も引き続き有効活用していく。
- ・1年次から学習規律(チャイム着席、学習用具や宿題を忘れない等)を守れるよう指導を徹底していく。(学業指導の充実)
- ・基礎基本の定着と学習習慣の向上(平日や休日の学習時間の少なさとテレビを見たりゲームをする時間の多さが比例)に力を入れスタンダードダイアリー内の学習時間や、休日の日課表を記入させていくことにより、時間の使い方を振り返りさせていく。
- ・保護者会や学年通信等で本調査の結果を説明し、家庭の協力を得るようにしたい。